平成27年度 沖縄観光危機管理シンポジウム

制作・沖縄タイムス社 広告局

観光危機に備えよ

沖縄経済をけん引する観光産業は、災害発生時の危機管理の責務とも向き合う。有事の際、行政や観光事業者はどう対応すればよいのか―。「沖縄観光危機管理シンポジウム」（主催・県、沖縄観光コンベンションビューロー）が２月26日、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターで開かれた。東日本大震災などで被災した県外の復興担当者が経験を踏まえて提言。パネルディスカッションでは県内の自治体職員らが民間との連携などで議論を交わした。

地域の関係性構築を

基調講演

佐藤綾氏
宮城県松島町産業観光課 観光班班長

東日本大震災では沖縄の方からも多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げる。わたしが生まれ育ち、現在、役場職員として働いている宮城県松島町は観光産業と水産業がさかんだ。松尾芭蕉が美しさのあまり一句も詠めなかったという逸話が残るほどの景観で、沖縄のようなアクティブさはないが、わびさびのある観光地だ。

1978年、マグニチュード7・2の宮城県沖地震があった。自宅前で倒壊した土産品店を今でも覚えている。それから30年後の2008年に町は観光客も想定した避難訓練を実施した。津波を想定し多言語の案内標識もつくった。町と観光協会で、宿泊施設を避難所に、遊覧船を輸送に使うなどの災害協定を締結した。

その3年後に東日本大震災が発生した。観測史上最大のマグニチュード9・0の地震とそれに伴う津波で、今日（2月26日）現在、全国で1万5894人が亡くなっており、その約60%9541人を宮城県が占めている。松島町と人口規模が同じくらいの南三陸町でも620人が亡くなった。一方で松島町は死者2人にとどまった。松島湾に260ある島々が波の高さを2・6㍍に抑えたことで被害を少なくしたのだ。

震災時、町内に観光客が1200人ほどいた。帰宅困難者となった彼らは、お寺やホテルで5日ほどの避難生活を余儀なくされた。町の災害対策本部は災害発生日からインターネットを中心に、人的被害の程度、たずね人、交通インフラ、給水、備蓄食糧などの最新ニュースを毎日発行した。

被災した観光客の中に米国人家族3人がいた。混乱の中で一時離ればなれになるなど、ほとんど日本語を話せないこともあって苦労されていた。一定の英会話ができるわたしがケアを担当。帰宅困難者にならぬよう、一晩松島で預かり、空港までのルートを記したメモを渡し、翌朝バス停まで送った。

アメリカ人家族は帰国後、松島のために基金を立ち上げるなど復興を支援してくれた。向こうの自治体とはホームステイなど姉妹都市を見据えた交流が始まっている。うれしい想定外の支援だ。

松島町の震災復興計画は最終年度に入ったが、なかなか進んでいない。しかし、いち早く復興して東北復興のけん引役になろうという気持ちで取り組んでいる。避難計画とか訓練で100%をできるわけではないが、やらないよりはやったほうが絶対にいい。想定外の事象も肝に銘じて、現場でどう動くか考えることはすごく大事なことだ。また、ふだんからコミュニティーができているかどうかで、いざというときに差が出る。ふだんから（地域の）関係性の構築をおすすめしたい。

事業報告

主体的かつ連携密に

屋比久義氏
県文化観光スポーツ部 観光政策課副参事

観光危機管理に関する県の主な役割は①全県的な危機管理体制の整備②市町村・事業者の減災対策促進③広域的な総合調整機能の発揮④総括的な情報収集・整理・発信―となっている。これらを踏まえた県実行計画を作成しており、決定後に公表する。

それぞれの置かれた状況で、主体的な観光危機対応を行いつつ、互いに連携することで、被害を最小限に抑える。不自由を余儀なくされる被災観光客の満足度を高めるなど対策を事前に検討することで、全県的・広域的な総合調整による対策につなげ、観光産業、地域経済の復興を円滑に進めていくことが、県実行計画の最終的な目的だ。

離島苦に対応 計画策定急ぐ

仲宗根寛氏
座間味村産業振興課 観光船舶班主任

離島村である座間味村の観光危機を想定した課題は、通信途絶や港湾機能停止による孤立、住民より多い観光客の避難誘導、外国人観光客への対応、備蓄食糧の数量、帰宅困難者への対応などが挙げられる。

離島村なのでマンパワー不足は否めないが、課題解決に向けて、日ごろから災害を想定し、県や国と連携して災害発生時に迅速に対応できるよう取り組む。

謝花裕作氏
本部町商工観光課班長

本部町は道路が寸断されれば陸の孤島になる可能性がある。繁忙期には町人口をはるかに上回る観光客が来る。災害発生時には町民だけではなく、観光客への対応も必至だ。

現段階では、避難観光客に関する情報の共有、一元化に対応できる組織がないなど課題がたくさんある。本年度策定した計画をもとに、より具体的な実行計画を検討していく。

登壇者

【基調講演】佐藤綾氏（宮城県松島町産業観光課観光班班長）
【事業報告】屋比久義氏（県文化観光スポーツ部観光政策課副参事）▽仲宗根寛氏（座間味村産業振興課観光船舶班主任）▽謝花裕作氏（本部町商工観光課班長）
【トークセッション】芦本芳朗氏（石川県和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合参与）▽高松正人氏（株式会社JTB総合研究所常務取締役・観光危機管理研究室長）
【パネルディスカッション】佐藤氏、芦本氏、仲宗根氏、謝花氏、屋比久氏、下地芳郎氏（司会、琉球大学観光産業科学部観光科学科教授）

パネルディスカッション

官民連携が復興左右

パネルディスカッションでは「さあ、はじめよう！　あなたのまちの観光危機管理」をテーマに各自治体の取り組みが紹介され、提言が行われた。司会は琉球大学観光産業科学部観光科学科の下地芳郎教授。

・・・